

令和7年度 第1回まちづくりミーティング

令和7年7月17日（木）18時30分～

西南部公民館

米丸、新神田、押野、西南部、
三和校下（地区）

（1）市長あいさつ

【村山市長】

皆さん、こんばんは。本日は、平日の夜遅い時間にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

さて、本日は、5つの校下の皆様にお集まりをいただきました。このまちづくりミーティングでありますけれども、私が市長に就任した令和4年度の年に、全ての校下でお話をするということで行いましたけれども、その際は新たな都市像を策定するためにご意見を伺いたいということで開催をいたしました。その翌年、令和5年度から、このような形、従来の形に戻してまちづくりミーティングを再開させております。コロナ禍を経てなで本当に久しぶりの開催ということでありますけれども、地域とともに地域の抱える課題について意識を同じくして、解決できるところを少しでも行っていこうというように考えております。限られた時間ではありますけれども、内容の濃い会議にできればと思っております。よろしくお願ひいたします。

（2）地域代表あいさつ

【三和校下町会連合会長】

連日、毎日暑さでかなり皆さんお疲れの折、たくさんの地域の方が参加されまして、ありがとうございます。

私も何回も出ておりましたけれども、今日は第5ブロックの連長さんがお集まりになるということで、いろいろな地域の課題がたくさんございますけど、後ほどそれぞれの連長さんから説明ございますけど、今日は皆さんの地域の代表の方がおいでますので、そういう方にも意見交換をしたいなと思っております。

今日は局長さんと市長さんがおいでになりましたので、住民の声を聞きたいということ

でこういう場を設けてございますので、ひとつざくばらんに、いろんなことを意見交換したいなと思っております。それが一番有意義な会でございますので、皆さん、先ほど市長さんが言いました、いろいろな課題もございますので、今日はよろしくお願ひいたします。

(3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、協議

①災害備蓄品保管倉庫の整備について（米丸校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【米丸校下町会連合会】

先日の金沢市町会連合会の市政連絡会において、危機管理監より防災備蓄品の配備をするとの説明がありました。昨年の能登地震の際には、校下の拠点避難場所である米丸小学校に夕方より4時間ほどの間に650名の方が避難されました。

幸い水道は使用できましたが、食料配布の要望が出たところ、小学校には50食分の非常食の備蓄しかなく、提供できない状況でした。

これに関しまして、どこにどれくらいの規模の備蓄品を配備するのか、具体的な内容を教えていただきたいのと、それから地元でも多少の非常食等の備蓄を検討する余地はあるんですけども、小学校にも公民館にも大量の備蓄品を置く場所はありません。西部環境エネルギーセンター周辺に市の空き施設等が見受けられますが、こういった施設を災害備蓄品の保管庫として使用できませんか。

【山下危機管理監】

現在、小学校にあります避難所でございますが、先ほど会長さんからもお話をあったように、保管スペースに限りがありますことから、簡易間仕切り、毛布、簡易トイレ、またその処理セット、こういった災害時の初動において必要最小限となる生活必需品を備蓄しております。今お話をありました食料についてですが、原則、各小学校等に分散備蓄は行わないこととなっております。具体的には大和町ですとか大桑防災拠点広場にあります市内4か所の倉庫に備蓄をしておりまして、災害が発生した際には、この倉庫から各拠点避難所へ搬送するという計画となっております。

市といたしましても、現在、アルファ化米約10万食を備蓄しておりますけれども、これだけにとどまらず、食料品等の提供に関しまして、民間事業団体8社と災害時応援協力協定を締結しております、食料の確保に努めているところでございます。ただ、大規模災害、先般の能登のような大規模災害がもし金沢で起こった場合ですけれども、発災直後に物流機能が順調にいかず、停止する可能性も十分あると考えております、これまでの災害でも、市民の皆様に3日程度物資が届かないことがありますことから、平時からの家庭での備蓄の充実、3日間程度の備蓄をお願いするとともに、避難所においていただくときには、非常用の持ち出し袋のご準備、こういったこともお願いしているところでございます。いずれにいたしましても、全ての小学校区に食料を備蓄することは難しいと考えております。

ご提案の西部環境エネルギーセンター周辺の施設についてでございますが、先般5月に県が被害想定を出しました。これを受けて有識者の会議を近く立ち上げることとしておりまして、その中で備蓄計画の在り方、今言った4か所の備蓄倉庫、こういったものもどこに再整備をするかということを検討することとしておりまして、その全体の市のバランスの中で整備ができれば整備をしていくという形になろうかと思っております。

【村山市長】

今、危機管理監のほうから答弁申し上げたとおり、今年の5月に県の地震被害想定の見直しがありました。これを基にして、避難所の在り方、備蓄品の種類や数の在り方についての検討をしていっています。そして、備蓄倉庫についてもこの4か所でいいのか、あるいはその配置がどうなのかというところも改めて検討しなければいけないかなというように思っています。災害の種類によって、それが取りに行きやすい場所なのかどうか、そして我々としても備蓄品を搬出するというオペレーションができるかどうかということも確認しながら、そのあたりをやっていきたいなと思っています。

あわせて、これまであまり整備が進んでいなかったマンホールトイレなどについても、実はこれは下水の処理場の近く、そして耐震化された管からつながってくる避難所、小学校などのところにマンホールトイレを置いていたんですけども、トイレの問題も大きく今回の地震では問題になりました。各拠点の中で、そこに一時的に滞留するような装置というか水槽というか、そういうものができるようであれば、必ずしもそこから下水処理場に耐震化された管が通っていなくても、そこで一時にためるということもできるとすれ

ば、この場所についても市内どういう箇所にあればいいかということを再検討しております。

この5月に、県の地震被害想定と違う文脈の中で能登半島地震の課題検証会議を我々としても行って第1次の地域防災計画の見直しをしたところですけれども、この県の地震被害想定を基にして第2次の地域防災計画の見直しを行っているところであります。実を申しますと、現在の地震の被害想定に対して今回出た県の地震被害想定、多くの数値で改善をされてきています。死者の数、倒壊の家屋の数なども、これは住宅の耐震化が進んできたということもあって、あるいは危機意識も醸成されてきたということもあってこれはいい数値にはなってきていますが、おるんですけれども、逆に申し上げると、住宅の耐震化あるいはこの危機管理対策が進んでくることによって被害を少なくすることができるということのあかしでもあるというように思っています。

そんなことも考えながら、これからさらに被害を少なくするため、あるいは新しく今クローズアップされたのが帰宅困難者対策でもありますので、そういったところも意を用いながら、第2次の地域防災計画の見直しを進めていきたいと考えております。

②糸田新町と西泉6丁目を結ぶ歩行者用橋について（新神田校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【新神田校下町会連合会】

増泉川の水門管理用としてあった管理橋は、水門撤去後も地元の強い要望により、歩行者、自転車用の伏見川沿いに向かう方々の貴重な通路として使用されていました。

伏見川沿いには伏見高校や金沢錦丘中学校・高校などがあり、橋は新神田地区のみならず、米丸地区や緑地区など多くの生徒が安全に伏見川沿いを通って通学するために利用していました。また、公共交通機関である西金沢駅にスムーズに向かう便利な橋として通勤通学にも利用されていました。そのほか、町民の健康増進のため、川沿いの散歩コースへの安全なルートとして利用もされてきました。

2024年12月に突如、老朽化問題が浮上し、橋の存続をお願いする要望書を提出していましたが、2025年2月に、安全性を担保できないという理由のため、急遽、通行止めになりました。橋を渡らないようにカラーコーンなどの安全策を講じていますが、乗り越えて横

断する方々が散見されています。

地域が考える対応策・解決策、協議したい事項について、渡らないように策を講じていいのに横断者がいるということは、それほど必要価値のある橋だと我々は考えております。

近隣町会並びに町民からも「いつになつたら老朽化工事をして渡れるようになるのか」という質問を多く受けてます。

橋を利用できないとなると、抜け道として交通量の多い一心橋へ迂回することによる交通事故や、通行止めの柵を乗り越えて渡ろうとして橋から落ちてしまう事故につながる可能性もあります。

一日でも早く、安全で安心して通行できる橋の復旧を望みます。

【木谷土木局長】

ご指摘の橋についてですが、伏見川の改修により逆水門が撤去された後に、水門の管理用の通路が現在のように歩道橋として使用されてきたものです。水門があったのが、金沢市で調査しても昭和30年代か40年代か分からぬといふ、不明というようなデータになっております。

伏見川が現在の川幅でない頃、まだ川幅が狭い頃、増泉川に大雨が降ると逆流をしておりました、常に。まだほとんどが農地やったと思います。その逆流を防止するために水門が昭和30年代から40年代に設置されて、伏見川の改修が昭和55年から始まりまして61年まで改修をやっておるんですが、そのときに今の状態になって管理用通路として使用されてきた。これ逆算しますと、設置後50年以上は確実にたっているということで、令和7年にさびがひどいということで、令和7年の1月に緊急にこの鉄の腐食の進行を専門会社に調査していただきました。この調査を実施したところ、部材の損傷が、非常にさびの進行が激しく、これまでのような部分的な補修はやっておったんですが、対応できないと判定されたため、安全確保を優先して令和7年の2月より、先ほどのお話にもあったように通行止めと、申し訳ないがさせていただいております。

そこで我々、令和6年の冬の真っただ中、12月にこの橋の利用量を調査させていただきました。そこで、冬季でもかかわらず1日300人以上の通行が確認されておりまして、本市としてもこの橋の必要性は十分認識しているところでございます。

現在、復旧方法等について検討しているところでありますが、どうしても設計や工事に

必要な期間がございます。供用開始までは一定の期間かかる見込みとなっております。地元の皆様には引き続きご不便をおかけして申し訳ございませんが、何とぞご理解とご協力のほどをよろしくお願ひするところでございます。

【新神田校下町会連合会】

ここの橋は、隣が米泉校下の西泉6丁目で校下をまたいでおります。私ども、この西泉6丁目のほうにも話をし、米泉校下の連長さんにも「いや、この橋はやっぱり必要なんだ。使っているんだ」ということもお聞きし、共に要望を出しているところであります。

今ほどのご回答では、必要性は認識しているんだと、ただいろんな関係があつて一定期間必要なんだという説明でございましたので、私ども、校下等々に説明するときには、市のほうは認識しているし、時間はかかっているけれども新しい橋が架かるんだ、廃止にはならないんだということは言い切ってもよろしいですよね。

【木谷土木局長】

私の気持ちとしましては、一日も早い復旧ということで準備をしたいなというふうに思っております。

【新神田校下町会連合会】

熱い気持ち、受け取させていただきます。また、あとは市長さんの判断だと思いますが。

【村山市長】

もちろん復旧させて、架けていきたいとは思いますけれども、一定期間と言うとちょっと分かりづらいので、いつぐらいまでかかりそうですか。

【木谷土木局長】

橋の設計になりますと相当な時間がかかります。現在と同じような使い方をするということでありましたら、一般的には設計に1年、工事に1年ということに予算上もなつてくるところでございます。最長でそれぐらいかかりますが、あとは議会で承認いただいたうえで着手となるかと思います。

【村山市長】

私どもとしては架けていきたいと思いますので、あとは議会にお諮りし、適切に進めていきたいと思っています。

この地域では糸田の踏切道もありますし、また、泉野々市線の工事もありますので、多数の工事があります。ご迷惑をおかけしますけれども、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

③公共交通網について（押野校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【押野校下町会連合会】

押野地区は公共交通網が大変希薄であります。自家用車に依存した生活が前提となっております。高齢者の交通事故防止の観点から、免許返納を進める一方で移動手段の選択肢が少なく、買物や通院、生活の質が低下する世帯が増加しております。また、銀行の支店も次々となくなっております。そういう点で、これからまたさらに高齢者世帯の増加に伴い、日常的な移動ニーズ（買物、通院、役所の手続など）をどう考えるかは喫緊の課題と考えます。

課題の焦点として、安価で持続可能な移動手段の提供（コミュニティバス、乗合タクシーなど）です。高齢者が安心して免許を返納できる地域社会の仕組みづくりを考えてほしいなというふうに思っております。特に言いたいのは、コミュニティバスは、うちの八日市の隣は、東へ行っても西へ行っても南へ行っても全部野々市です。野々市にはコミュニティバスが走っています。ですから、野々市駅から二日市を通って、八日市を避けて、押越へ行って野々市押野へという小さいバスが走っています。あれは私はいいなといつも思っております。

そういうことで、地域が考える対応策・解決策、協議したい事項として検討してほしい具体的なアイデアなんですけれども、スマホに不慣れな高齢者でも、また、スマホを持たない高齢者でも、電話で使える公的交通案内、予約代行サービスを提供していただければなというふうに思っております。

【古谷交通政策監】

押野校下の校下内及びその近郊には、現在、IRいしかわ鉄道西金沢駅、北陸鉄道石川線新西金沢駅があり、また、八日市線をはじめとする北陸鉄道のバス路線が運行をされています。全市的に公共交通が非常に厳しい状況であり、地域の方々には、こうした既存の公共交通をご利用いただき、公共交通の持続性の確保にご協力いただきたいと思っています。

他方、市では、地域の事情に応じた地域運営交通の実施に向けて、先ほど連長さんからはデマンド交通はあまり好きじゃないという話もありましたが、地域での勉強会の開催や地域ニーズの把握、運行計画の作成から本格運行まで、導入のサポートも行っています。支援制度もあることから、相談させていただければと思いますので、お問合せください。

今回、スマホに不慣れな高齢者でも使える交通案内を検討してほしいということでした。公共交通におけるスマホの利活用として、本市では令和3年度に、スマホのアプリ「のりまっし金沢」の提供を始めました。「のりまっし金沢」では、バス・電車の時刻検索や運行状況が検索できるようになっています。また、各種の割引乗車券等の購入もできるよう、毎年少しずつ利便性が上がるようなスマホアプリとなっています。

現在、10万人を超える方々のご利用をいただいているところですが、スマホに不慣れな方に対しては、かがやき発信講座を通じて「のりまっし金沢」の機能の使い方などについて詳しくお知らせする取組もしていますので、ぜひご利用ください。

また、スマホ操作はやっぱり難しいという方は、北陸鉄道ではテレホンサービスセンターで、年中無休でお問合せに対応していますし、IRいしかわ鉄道でも電話でのお問合せを受け付けていますので、ご利用ください。

【村山市長】

公共交通については、その公共交通が走っているところについてはなるべく残していくたいと思います。残念ながら廃止になってしまって公共交通が通っていない地域も出てきてしまっている中で、なるべく使っていただきたい。そのためには我々としても、公共交通の事業者に対して、便利な使い方を利用者に勧めていきたいということを各社にお願いしています。そのほか、金沢MaaSコンソーシアムという、交通事業者や民間企業、これは交通に携わらない企業にも参加いただいている。そのなかで、乗換えをどうやって便利にしていくか、あるいはバスを待っているときにどの路線が次に来るのかが分かるよ

うに、そしてバスを待っている間でもバス待ちが飽きないようにといふことも進めています。

一方で今、公共交通、先ほど西金沢駅のバスの本数が、30分に1本だったのが1時間に1本という話もありましたが、運転手不足の問題は本当に深刻になっています。そうすると使われない路線から廃止、減便という状況になっていきますので、それを何としても避けたいので、乗っていただくことにぜひ努力いただきたいと思います。

先ほど紹介があった「のりまっし金沢」というアプリ、世の中にはいろんなアプリがあって、ダウンロードしてそれを1回限りしか使わないものもありますけれども、この「のりまっし金沢」というアプリは本当に便利です。当初、北鉄のアプリが1回なくなって「のりまっし金沢」が代わりにできましたというときはかなり不便で、いろんなお声もいただきましたけれども、今はどんどんとよくなっていますので、もう1回試していただきたいと思います。

そして、上下分離方式のところについては、我々はみなし上下分離方式ということで、県にもご協力をいただいて、この4月から一定程度の公費負担をさせていただきながら、鉄道については今後便数が増えるようにとか、そんなことも北陸鉄道と話をしているところでもあります。向こうの事情もあると思いますけれども、我々としてもできる限りのことをやっていきたいと思います。

免許返納の話もありましたが、毎年のところをすぐ手当てしていくというのはなかなか難しいところではあるので、ご理解いただきたいと思います。

一方で、便利になってくるところもあります。私は最近I C aは使わなくなってきたました。クレジットカードでV i s aタッチという、クレジットカードをタッチすればそれで引き落とされるものが出てきました。I C aに幾ら入っているか分からぬが、クレジットカードなら、お金入ってなくても使うことができます。今後も便利な使い方ができるよう我々からも交通事業者に提案をしていきたいと思っています。

ぜひ公共交通をなるべく長く残していくための努力を一緒にやっていきたいと思います。

④公園整備およびごみステーション等の環境基盤整備について（西南部校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【西南部校下町会連合会】

地域課題について、公園整備およびごみステーション等の環境基盤整備についてということでお話をさせていただきます。

西南部校下には14町会あり、一部の町会では、区域内に公園や広場がないため、子供や高齢者の憩いの場、災害時の一時避難場所が確保できておりません。また、夏祭りやレクリエーション事業などの地域行事を開催する場所についても限られているのが現状です。

地域では、空き家、空き地の活用も含めた整備はできないものかといった声があります。市として多目的に利用できる公園整備の推進を求めます。

2番のごみステーションの未整備・老朽化につきましては、校下内にはごみステーションの整備が十分でない地域があり、特に住宅密集地や道路条件が厳しい場所では、収集作業や衛生環境に支障を来しております。囲い付など、安全で衛生的な集積場所の整備が必要です。これ、昨年一つ変更をしておりますけれども、今後まだ必要だなというふうに思っております。

防災施設用地の確保ということで、地域によっては防災倉庫を設置する敷地がなく、他町会の敷地を間借りしている例もあります。災害対応力の地域間格差を解消するため、倉庫等を設置する用地の確保を求めます。

なお、公園整備については、完成後の維持管理に町会・住民が積極的に関与する意向を示しております。清掃・見守り活動を通じて持続可能な地域施設運営に協力していく考えであります。

ごみステーションの新設についてお願いをするんですけども、なかなか断られことが多い現状です。公園ができれば、それも解決するものに至るのではないかなどというふうに思っております。市による空き家の買取り、除却後の公園整備等を強く要望いたします。いかがでしょうか。

【高木都市整備局長】

公園等の整備に関するご質問について回答させていただきます。

校下内的一部の町会では、公園や広場がないため、憩いの場や災害時の一時避難所が確保できていないということでございます。

西南部校下におきましては、小規模な公園から比較的大規模な公園、これを街区公園と

か近隣公園と呼んでおりますけれども、そういう様々な種類のものが16か所整備されているという状況でございます。一方で、公園の整備管理に関する法律に都市公園法というものがございまして、その法律には、公園の種類ごとにどの程度の範囲の住民の方を対象とするか、どの程度の距離でアクセスできるかを表す目安の距離、これを誘致距離と言っておりますが、そういう標準的な値が示されています。例えば小規模な公園であれば、公園を中心に半径100メートルの範囲内の方が標準的に使われますねということですか、街区公園であれば250メートル、近隣公園であれば500メートルといったような、そういう目安の距離が示されています。その距離を基にしまして、校下の全体面積に対して公園・緑地を中心とした誘致距離を表す円が占める面積、この割合を公園・緑地のカバー率と呼んでおりますけれども、その割合を算出しますと、ほぼ全域をカバーしているということになりますので、公園や緑地は充足していると判断しております。

したがいまして、新たな公園整備の必要性は低いというふうに考えておりまして、現在ある公園・緑地を校下全体で工夫しながらご活用いただければありがたいと思っております。

そういう状況にありますので、地震などの災害時の一時避難場所につきましては、家庭や自主防災組織、職場などであらかじめ話し合っていただいて、公園などの公共施設に限らずに、近くの民有地の空き地なども含めてご検討いただければというふうに思っております。

続きまして、空き家、空き地の活用も含めた整備はできないものかとのお尋ねもございました。

空き家の有効活用という観点から一つ制度がございますので、ご紹介をさせていただきます。空き家の所有者と町会と市、この3者による協定を締結いたしまして、空き家を集会所などに活用する、あるいは空き家を解体してポケットパークなどを整備するといった場合には、整備費用の3分の2、限度額100万円を町会に対して、解体費用の2分の1、限度額50万円を所有者に対して、それぞれ補助する制度がございます。そういう制度の活用について、ぜひご相談いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【越山環境局長】

ごみステーションにつきましては、条例で、地域住民が共同で設置するものとし、地域住民により適切に管理されなければならないとされております。そのため、地域住民の共同

体であります町会がその設置と管理を担っているわけなんですけれども、設置場所についても町会で場所を確保し整備いただく必要がございます。よくご存じかと思いますが、これが原則となっております。

燃やすごみは15世帯に1か所、燃やさないごみや資源回収は50世帯に1か所設置することができるため、設置する際には、事前に西部管理センターまでご相談をいただければと思います。

なお、ごみステーションの整備に当たっては、町会が機材を購入する場合などには助成制度がございますので、これも併せてご活用いただければというふうに思っております。

【山下危機管理監】

地域の中に土地がないというお話をございました。ただ、市内全ての町会に防災倉庫を設置するための用地を市が全て用意するというのは、なかなかこれ難しいということはご理解をいただきたいなと思っております。

先ほどご提示もありましたが、町会のお隣のところをお借りして建てるケースというのがあるのも知っておりますし、また、町会内にあります企業の土地を借りて置いていらっしゃるというところがあるということも理解をしております。また、本当に狭い町会の区域においては、合同で幾つかの町会が一つの倉庫を共有するという例もございますので、ご検討いただければなと思っております。

金沢市として今年、企業防災士というのも育成を始めております。これは、企業の防災を進める一方で、その企業があるところの地域の方と一緒に防災を進めてほしいということもお願いをしてございます。もし地域内に企業防災士、今、募集をして育成をしておりますけれども、育成が終わりましたら市のホームページでも公開をさせていただきますので、もしよろしければ、そういった場所もご検討の一つに挙げていただいたら大変ありがとうございます。

【村山市長】

先ほどの空き家の活用というところが一つのポイントかなというふうに思いますし、こういったことでポケットパークができていくということがもしできれば、そのほかの課題についても解決の糸口が見えてくるかなというふうに思います。

なかなかごみステーションの問題、防災倉庫の問題、難しいところあると思いますけれ

ども、これも相談をしながら、また、各地域ごとにどんなことができるかということが地域の事情によって変わってくる内容だというふうに思いますので、相談をいただければというように思います。

⑤矢木保育所移転について（三和校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【三和校下町会連合会】

矢木保育所は野々市の御経塚のちょうど分岐点でございまして、昔は押野地区でございましたけど、市の保育所が昭和45年に建築されまして、現在、54年を迎えました。金沢でも1番、2番目に古い保育所ということで老化がすごく進んでおります。また交通量が非常に多く、御経塚との境目で、また白山市との分岐点や白山高速インターがございまして非常に交通量が多いということで、朝のラッシュ時には、信号を3回ぐらい待たないと8号線まで出れないという、そういう状況のところに地理的には角に建っておりまして、私も何回も市のほうへ依頼しております。

ただ、住民の方からちょっと対応が遅いのではないかと。昔は、矢木地区、上荒屋地区はほとんど田んぼでございまして、その時点で対応してくれれば。矢木のほうは地面が高くて用地買収できんということで、こちら側は大変困っております。あそこは交通量が多くて、向かいにはコンビニがございまして、子供たちを送迎するときには大変な苦労しているわけでございまして、あそこで交通整理をしておるので交通事故もございませんけど、市としてどのようにやっておいでるかなということが地域のお願いでございまして、お聞きしたいなと思っています。

【安宅こども未来局長】

連長さんのおっしゃるとおりで、非常に危ない交通交差点のところに今現在建っております。ご指摘のとおりでございまして、現在の矢木保育所は建築から54年経過しております。昭和45年の12月にできております。市立保育所13か所あるんですけども、その中で2番目に古いというものでございます。

実は、市立保育所の再整備というものに関しては令和2年度に基本方針を取りまとめて

おります。現在の敷地というものについては、主要な幹線道路に面した危険な交通事情を抱える場所に立地している保育所という形で分類されております。移転のほうも考慮することとされています。

市立保育所の再整備については、現在、森本地区で新しい保育所の建設を進めております。計画的に保育所の再整備を進めていきたいというふうに考えておりまして、矢木保育所につきましては、三和校下を含みます西部地区の保育需要を踏まえた上で、地域や子育て世帯の皆様の意見を幅広く聞きながら、引き続き検討を進めていきたいというふうに思っています。

【山下危機管理監】

先ほど令和2年の取りまとめをしたときの担当の課長でございますので、そのときの背景を少しご説明させていただきます。

おっしゃったとおり、金沢市、年数がたってきましたて建て替えをそろそろしなければいけない時期のものが増えてきました。一方で少子化等もあって、本当にこのまま公立を建てていいのかという議論の中で、まず市内全域を有識者の方に見ていただいて、大学の先生ですとか保護者の代表の方にも見ていただいて、真っ先にまず建て替えが必要なものと少し時間を置いて検討すべきものの2つに大きく分けさせていただきました。

その幾つか、真っ先にやらなければいけないと言われたのが、1つは森本地区、先ほど安宅局長がご説明をした森本地区に、駅のそばにある2つと山の1個をどうするか、これ子供が減ってきた中でどう維持していくかということで検討を一つさせていただきました。

で、もう2つ、検討の俎上に上がったものがございまして、これは親御さんが保育所へお子さんを迎えるに、送りに行くときに交通事情が非常に厳しいエリア、1つは三馬の保育所でございます。生活道路の中、幅、1車線ぐらいのところを車が住宅地へ入っていくということで、ここが非常に危険だというのが1点。もう一つは、先ほど、連長さんもよくご存じ、矢木のところの交差点が変形した交差点、8号線からインターのほうへ行くとすると、ちょうどカーブするときの距離が、横断歩道までの距離が非常に短くて、警察の方とも何度も立ち会っていただいて、町会の方ともやって、変形交差点の変更はできないかということもこれまでずっと続けてきております。

そういった中で、金沢市も、この大きく分けて5つの保育所を順次整備していくという

ことは決まっておりまして、そのために保育所ごとに整備方針を今後どうしていくかというのが、今、安宅局長のところで一生懸命やってらっしゃるところだろうと思います。

ただ、警察とお話しすると、交差点の改良はやはり難しいと言われています。

【村山市長】

何より大事なのは、府内でこれはしっかりと認識を共有しているということ、そして矢木についてこれからやらなければならないという課題は持っております。ですので、森本、宮野の保育所、今なくなりまして、そして双葉と薬師谷やっていますけれども、それを統合している保育所をやっているところです。課題をしっかりと認識した上で、なるべく早く課題解決に向けて取り組みたいと思っています。

(4) 共通課題について

金沢マラソン応援スポットについて

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【米丸校下町会連合会】

金沢マラソン応援スポットについて、私たち第5ブロックは、ほかに二塚と安原校下と合同で最終ゴール地点の運営を金沢マラソン開始時より行っています。

最終地点は他校下と違い、第5ブロックの通過点でないにもかかわらず、近隣校下ということで合わせて3周し、ほぼマラソンスタートから終盤まで丸1日の運営を輪番で行っています。しかし、輪番の当番となると一校下の負担があまりにも重く、事業開始から10年を経過していることからも、この輪番の運営に関し改善をお願いしたい。

今後、応援スポットの運営に関して金沢市のほうで全体を統括するよう、持続可能な提案や調整をお願いいたしたいと思います。回答をお願いいたします。

【津田文化スポーツ局長】

共通課題の説明に先立ちまして、まず皆様方におかれましては、金沢マラソンにご協力いただき、この場をお借りいたしまして厚く感謝を申し上げます。

金沢マラソンの応援スポットにつきましては、町会連合会の皆様をはじめ、公民館連合

会、校下婦人会連合会が中心となってご協力をいただき、金沢マラソンの最大の魅力としてランナーから高い評価を得ております。

事業開始から10年が経過したことを踏まえまして、市民全体で金沢マラソンを盛り上げているよさを残しながら、持続可能な形で実施していくため、今年度より運営に係る謝礼金につきまして、物価高騰等を考慮して全体的に底上げするとともに、ここにおられます皆さん方にご協力いただいております西部緑地公園の応援スポットをはじめ、特にコースの後半、長時間活動をいただいております地域への謝礼金を大きくさせていただいたところでございます。

なお、応援スポットの運営や応援方法などにつきましては、これまででも地域の特色を生かしながら、それぞれの実情や皆様のご意向を踏まえて、市としても調整させていただきたいと考えており、引き続きのご努力を重ねてお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【村山市長】

まず金沢マラソン、ご協力をいただいていることに感謝を申し上げたいというように思います。そして、特に終盤の応援スポットについては本当にランナーの方々からありがたがられているところで、ここを受け持つていただいているということに何より感謝を申し上げたいというように思っています。

コロナ禍前に行った大会が1回から5回までで、6回目がコロナ禍で中止になってオンライン大会になりました。7、8、9、10と4回やってきたとなると、コロナ禍前の状況というのは分からぬ状況になってきたかなというように思いますし、特に前回については、コロナ禍が明けた後でそういう対応だったということも含めると、どういう対応がいいのかというのは慎重に考えなきやいけないかなというふうに思っています。その前に戻すんだということで人を減らすというのは本当にいいのかどうかということ、今ご意見も伺いながら、これは検討しなければいけないなと思っていますので、今連長からいただいたご意見についてはちょっと持ち帰らせていただきたいというように思っています。

決定事項としてやってるわけではないというように思いますので。ただ、これからその役割でスポットに配置される市職員がどのような仕事をしていくかということ、それもしっかりと見直さなければならないというように思いますので、その点は持ち帰らせていただきたいというように思います。

改めて、それと、前回については衆院選も一緒だったということもあってのオペレーションの難しさもあったところではありますけれども、また、今回、謝礼金のところについては手当をさせていただいたので、その上でまたご意見をいただければというように思っていますので、今回11回ですけれども、12回大会に向けてもまたそれぞれの応援スポットの中での課題についてもご意見をいただければというふうに思います。

(5) 質疑応答、意見交換

【西南部校下町会連合会】

最近、若い方が町会を辞退すると、そういう問題が結構出てきてるんですよね。それで町会費も払わないと、そういう問題が結構出てきてるので、市の方に何回か、お話をしているんですけども、どういうふうに対処すればいいのか聞いてみたいと思います。よろしくお願ひします。

【南市民局長】

町会の加入率に関して、減少傾向にあるということは市としても非常に懸念をしております。現状67.74%まで落ち込んできまして、いろんなご事情があると思いますけれども、町会に入らないというのは市としても憂慮しているところであります。

町会連合会のコミュニティアドバイザーのほうにもご相談なさっていると思いますけれども、なかなか物事の性質上、強要するというのが非常に難しいテーマなのかなと思っております。ただ、町会というものは、やはりコミュニティを維持していく上で大変重要な組織であるということは、市としても思っているところであります。まずは町会のよさというものを改めてPRすることをしていきたいと思っております。具体には、町会のメリットなどを書いたような広報紙なども改めて市としても準備したいと思っております。

町会のメリットの中に、安全面であったり防災対応という部分で、ご近所の方々の助け合いといったものが、例えば阪神・淡路大震災のときにも有効に機能したこともあります。防犯なども町会のご尽力があって成り立っていることもありますので、まずは、なかなか解決策というのは難しいですけれども、そういったこともお話ししながらご説得という部分をまずお願いしたいというふうにも思っております。

市としても後押しできるところは協力していきたいと思っています。なかなか抜本的な

解決策というのが、市としても苦慮しているところでありますので、また皆さんと協力し合いながらできることをやっていきたいというふうに思っております。

【村山市長】

私から追加でお答えさせていただくと、金沢の町会って、他の地域の町会とは全然違うものだと思っています。自治体と町会があると、町会がその地域を動かしているというのが金沢の町会だと思うんですね。そのあたりは若い方々にも分かっていただくような努力を我々行政としてもしていかなければいけないと思っています。

そして町会のほうでも、例えば地域の祭りで、向こう三軒両隣じゃないですかけれども、「地域の祭り、一緒に出ていこうや」とか、そういうふうに活動していくって町会がどんなことをしているかということを、まず楽しい取組から連れていくというのが大事かなというように思うんです。そして、町会に入る前に、地域でどんな楽しいことが行われていて、それが町会が主体になって行われていて、だから町会は意味があるんだというようなことを、多分体験しないと入ってこないのかなというふうにも思います。町会に入らない方々の、なぜ入らないのかというのも、今、市民局のほうで調査をしているところでもあるので、そのあたりの取組を市としては進めていきたいと思います。

【西南部校下町会連合会】

先ほども出たんですけど、ごみ問題で、私の町会でも町会員の方々、二百三、四十世帯あるんですけど、金沢市のごみ減量推進課様の努力のおかげで皆さんの認識は高いと思うんですけど、毎年、違法ごみ、違反ごみが出て、それを調べますとアパートの住人だったりするわけです。そのアパートの住人の住所でアパートを調べて電話をすると、そのときは不動産屋が対応してくれて一時的には減るんですけど、次の年になるとまた同じように4月とかにごみが出ます。それは多分、町会員の人たちではなく、町会員の人たちは皆さん当番とかで班長をやってて、みんな環境美化とかのごみの当番してて、ごみの苦労は分かってるので、やっぱり大部分アパートの方じゃないかなと思うんですけど、そのアパートの方からももちろん町会費はいただいてますけれども、結局その都度、大家さんか、または管理会社や不動産屋に電話して対応しているということなんです。

毎年続けてるのも大変なので、金沢市のほうから、例えば、各不動産とかは限られた数だと思うので、住人に対する徹底、今「5374アプリ」とかありますよね。ああいうの

を、例えば新しい住人が来れば、ごみは金沢市は厳しいので心がけるようにとかいう、そういうアプローチしていただけないかなというのはいつも感じてるので。要するに担当者によって不動産屋さんも変わってくるので、すごくよい対応をしてくれるところもあれば、毎年毎年、結局言っても変わらないところもありますし、それで最近、またペット許可のアパートが増えてきて、住人は間違いなくペットのうんちをそのまま放置するということはないので、それが今年になって、例えばペットのうんちが道路の真ん中に置きっぱなしになってたり、車に踏まれてどうなってるというのは、結局そのアパートじゃないかなと思って電話して「その対応をお願いします」と言ったんですけども、これもまた将来にわたってどうなのかなと思うので、少なくとも金沢市は他府県から引っ越してきた方とか、有料ごみ袋じゃないところもありますので、そういう徹底というのを金沢市の方から不動産業者に対してできないものかなと思います。

【越山環境局長】

アパートの住人のごみ問題というのは、押野校下だけじゃなくて、特に学生の多いところなんかではもっと大変な状況になっています。

何でアパートに住んでるかというのは、やっぱり学生や転勤族だったりするからアパートに住んでるわけで、住人も逐次替わっていきます。ですので、当然我々もアパートの不動産業者に対してもそういう周知は常にしております。

ただ、どうしてもその不動産業者の取組の姿勢というもので対応も異なり、不十分な対応のところと、ちゃんと徹底されてるところがあるのも事実です。ただ、毎年、ごみ出しマナーについては不動産業者の協会に周知のお願いをしてますし、大きな不動産屋さんには直接不動産屋さんにもそういう周知をお願いしているところです。しかし、中に住んでる人が替わるとまたごみ出しが悪くなるということもあると思いますけれども、そこはこつこつとお願いをしていくしかないのかなと思っております。SNSなどでの発信もしておりますし、金沢に引っ越してきたときには、皆さんお持ちのごみの出し方パンフレットというものをお配りし、お願いをして、こういうルールがありますからねということも周知徹底してるつもりです。引き続きそこは努力してまいりたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

【西南部校下町会連合会】

先ほども公共交通の話が出たと思います。金沢市に至っては集約都市形成計画に基づいて、バス路線を残すところ、それからハブ化ということになっていますけれども、やっぱり今年に入っても平日で51便のバスの減便になってますよね、北鉄で。上下分離方式で石川総線維持します、どんだけやったかな、国からの補助で15年で132億、県が28億円、金沢市が28億負担しますということでやっています。

根本的に我々の西部地区というのは、これから先高齢化が進んでいって公共交通の足というものが本当に不便になってきます。なので、一定程度の幹線に固執してバスの路線を維持するんじやなしに、行政として切り替えていただいて、バスは要らないよと。であれば、地区で個別に、タクシー会社とか乗合バスとかあるわけなんですね。そういう仕組みに対しての補助金制度とか、そういう考え方の切替えというのはお持ちなんですかね。そのほうが多分、我々の地区としたら物すごく助かるんですよ。

というのは、やっぱりバスの便というのは不便で、高齢者の方が使おうと思っても、医者に行こうと思っても、1回まちに行って、また乗換えて現地に行ったりとか、必ず乗換えが必要な路線図になってるんですよね。なので、そういうものの利便性を考える上で、やっぱり個別もしくは5つか6つの町会連合会として、いろんなタクシー会社があります。まあまあ一般的に言う6人・7人乗りのやつの契約でこうやって回っていただくという手法に対しての補助制度とか、将来的には考えておられるのかどうかということも含めて、交通政策監にお伺いしたいんですけども。

【古谷交通政策監】

公共交通が今後もっと不便になるときに備えて、いつそのことバスをやめて、代替のものという考え方もあるのではないかということでした。

郊外部において今までバスがあったところが運転手不足であったり、乗車人数が少なくて採算が合わなくてという地区が金沢の北部のほうにありました。そういうところにつきましては地域運営交通という、連長がおっしゃったように、タクシーの乗り合いで、それをA I デマンド方式ということで、A I が最適なルートを選んで目的地まで運ぶというようなものは既に導入はしています。今まででは、郊外部での公共交通の廃止対応というところが主でした。

私のほうから、今日一番最初にお話ししましたが、この押野地区については、現時点ではいろんな公共交通があると思っていますが、今後のことを思って、地域運営交通という

仕組みを考えることも大切ですので、ご相談をいただければと思っています。

ただ、やはりそういうAIデマンド方式のものをバス路線が入っている地区に入れますと、当然のことながらバスが要るのかタクシーにするのかという選択になります。タクシーに流れればバスのほうは採算が合わなくなりますので、そういったところは地域の方とよく話をしないといけないと思っています。

【西南部校下町会連合会】

中枢都市圏構想で、のっティとかありますので、野々市市。のっティと、それから白山市運営してるのは、イオン白山でジョイントを今してます。なので、都市部をまたいでのそのまち独自のそういった周遊バス的なものが連携できるのであれば、金沢市もやっぱり野々市と話をしてある程度の、押野もしくは三和辺りまで乗り入れて回る、そういった話し合いもあってもいいんじゃないかなと思います。

のっティは多分1周40分の計算でルートを考えてましたよね、たしか。そういった制約の中で連携をしていくのであれば、そういった都市との連携もやっぱり公共交通として考えていくて話を進めていっていただければ、バスを維持するんだということに凝り固まるんじやなしに、いろんな手段を講じて地域の足というのを維持していただければ非常に助かるもので、柔軟な発想でやっていただければなと思います。

【古谷交通政策監】

近くには野々市のコミュニティバスも走っているということで、たくさんのいろいろなルートがありますので、そこがうまくつながれば便利になるというご提案だと思いますので、そういったところについては勉強していきたいと思います。

【村山市長】

その際には他都市との連携というのはもちろん大事だと思いますし、あとは運行の時間帯などもちょっと気をつけなければならない。森本地区のチョイソコなどは昼間の時間帯が中心ですので朝晩どうするかと、一番大事なところが抜けてしまわないようにしなければいけないので、そのあたりも注意が必要かなと思っています。

(6) 市長まとめ

【村山市長】

本日は本当に遅い時間までありがとうございました。熱心にご議論いただきました。道路の関係、交通の関係、防災の関係、そして何より町会を維持するにはどうしたらいいかという本質の議論がありましたので、本当に金沢の根幹をなす議論だというように思っています。そしてこれからどう維持していくべきか、あるいはその仲間をどんどんと増やしていくかなければならないというように思っています。

SNS等で拡散される部分というのは、これは興味のあるほうにどんどんとSNSあるいはネットニュースなども引き込まれていくほうになるので、ネガティブな話であればネガティブな方向にしか議論が行かないというような悪い面があると思っています。我々行政として、その平衡感覚を持った中でどのように届けるか、そして届かない人たちに対してどのようにアクセスしていくかということが、今、我々大きな危機感として持っていますので、そのようなことも踏まえつつ議論を展開させていきたいというように思っております。

本当に今日、地域とお話をできていい機会をいただいたというように思っております。遅くまでご協力をいただいたことに感謝をして、この会の最後の締めくくりとさせていただきます。ありがとうございました。